

平成 30 年度

学生生活調査報告書



Shizuoka University of Welfare

静岡福祉大学

目 次

あいさつ	1
序 章 調査の概要	2
第1章 学業	
1-1 大学での勉強の重要性	3
1-2 授業に対する理解	3
1-3 学修時間	3
1-4 学業についての教員との会話	4
1-5 履修科目の選択方法	4
FD委員会からのコメント	5
第2章 進路・キャリア支援	
2-1 卒業後の進路	6
2-2 取得したい資格	6
2-3 将来設計（進路）への不安	7
2-4 キャリア支援課の活用	7
2-5 キャリア支援課への要望や質問	7
キャリア支援委員会からのコメント	8
第3章 学生生活	
3-1 アルバイトの状況	9
3-2 車の免許	9
3-3 同居家族の有無	10
3-4 学生食堂	10
3-5 通学時間	10
3-6 通学手段	10
3-7 大学でのボランティア活動への参加	11
3-8 学友会主催行事の満足度	11
3-9 行事に対する要望や意見	12
3-10 学友会活動への参加	12
3-11 大学生活の充実度	12
3-12 興味・関心	13
3-13 掲示板の使用	13
3-14 Eメールの利用	14
3-15 学生マナーについて	14
3-16 学内外でのトラブル	14
3-17 学生生活への悩み	15
3-18 退学について	16
3-19 オフィスアワーについて	16
3-20 学生支援総合センターについて	16
学生支援総合センターからのコメント	17
第4章 大学	
4-1 本学の理念（建学の精神）の認知	18
4-2 大学生活の満足度	18
4-3 施設や制度、対応等大学への要望や意見	19
学生厚生委員会からのコメント	20
総務課からのコメント	21

教育内容を可視化し、教育の質を保証する

静岡福祉大学
学長 太田晴康

平成 30 年度の学生生活調査報告書をお届けします。

静岡福祉大学は毎年、在学生を対象にアンケートを実施していますが、その目的は三点あります。一点目に学生の実態を客観的に把握する必要性です。多くの声が教員をはじめ、さまざまな部署を通じて寄せられますが、経年変化を把握し改善に結びつける意味からも、一定の様式に沿った毎年の定例的な調査は欠かせません。

それに関連し、二点目には調査結果を確実に修学環境の向上に活かすという目的があります。他学の状況はもちろん、近年は国際比較という観点から日本の大学生の修学環境が話題になります。教育機関が学生のニーズに応じた環境を保証し、一人ひとりの資質と能力を見きわめるために学生生活調査は重要な基礎データといえるでしょう。

そして三点目に調査結果を短期的な問題解決や改善方策に活用することにとどまらず、そのデータをもとに、大学の中長期計画に反映させ、静岡福祉大学ならではの将来ビジョンを描くという目的です。

近年、大学への進学率は、ほぼ二人に一人という流れが定着しています。かつてのように一部のエリート層を対象とする教育ではなく、卒業後に大学で身につけた専門知識や技術を就職先で発揮する職業人として、地域社会を支える担い手として活躍する市民として送り出すことを通じ、大学は教育に関し大きな責任を負っています。今後も人口減少傾向が続く日本において、大学が高等教育についてどのような青写真を描くのか、質の保証を明確化し、地域に必要とされる存在であり続けるために内外にその大学の将来像を示すことが求められています。

日本の私立大学は大学進学者の約 8 割を引き受け、多くの若者に高等教育を提供しています。そうしたなかで、各大学には建学の精神を始めとする高等教育機関としての理念があります。その理念に沿って、私たちは静岡福祉大学ならではの強みと特色を今まで以上に明らかにすることが求められていることはいまでもありません。

そのためにも、この度の学生調査をはじめとするさまざまな調査を分析し、データを活用し、多くのステークホルダーに支持される高等教育機関として、私たちはこれからも歩み続くことをお約束します。

序章 調査の概要

本調査は平成30年11月から12月に、本学学部に所属する学生を対象に行った。

調査は、1年次から3年次の必修科目である「キャリア支援」を履修する学生、1年生176人、2年生192人、3年生182人と、4年次で「キャリア支援IV」、「国家試験対策講座」、保育・教職実践演習を受講する学生98人の合計648人を対象として行った。回答者の所属学科、学年、性別の内訳は、表1のとおりである。

在籍に対する回答者の割合は、1年生が147人(86.0%)、2年生が145人(77.1%)、3年生が160人(88.4%)、4年生が42人(24.1%)、学年未記入等が5人で、全体で499人(69.9%)と1年生から3年生の7割以上が回答した。

表1 学生生活調査回答者の内訳

平成30年12月1日現在

学年	学科	女子		男子		性別不明 回答者	合計	
		在籍	回答者	在籍	回答者		在籍	回答者
1	心理	48	43	30	24	1	78	68
	医療	7	5	12	10	0	19	15
	健康	14	14	21	15	0	35	29
	子ども	22	20	17	13	1	39	34
	未記入		1		0	0	0	1
2	心理	50	37	42	28	1	92	66
	医療	10	9	6	1	0	16	10
	健康	15	10	13	10	1	28	21
	子ども	37	31	15	14	2	52	47
	未記入		1		0	0	0	1
3	心理	50	40	37	30	5	87	75
	医療	21	18	5	3	1	26	22
	健康	12	10	22	19	3	34	32
	子ども	28	21	6	5	4	34	30
	未記入		1		0	0	0	1
4	心理	39	6	33	5	2	72	13
	医療	16	3	12	0	0	28	3
	健康	16	1	31	3	0	47	4
	子ども	19	11	8	4	6	27	21
	未記入		1		0	0	0	1
未記入	心理		0		0	2	0	2
	医療		0		0	1	0	1
	子ども		0		0	1	0	1
	未記入		0		0	1	0	1
	合計	404	283	310	184	32	714	499

※在籍者数には、休学者を含む

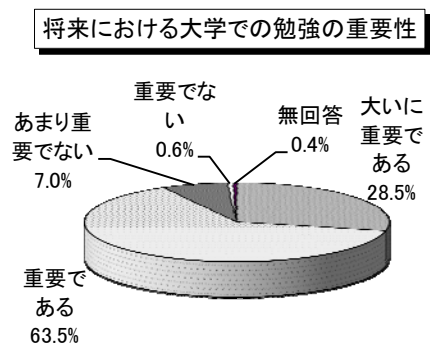
また、本調査は、学業、進路・キャリア支援、学生生活、大学に関する4つの領域から構成され、各項目に対して、選択形式または自由記述の形式で回答を得た。その具体的な質問内容と回答について、以下の章で述べる。

なお、以下の各質問項目の集計結果については、小数点第二位を四捨五入した結果を用いている。

第1章 学業

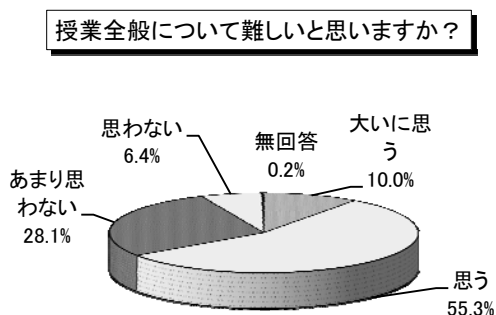
1-1 大学での勉強の重要性

「将来にとって、本学で勉強することはどの程度重要だと思いますか」とたずねたところ、「大いに重要である」が28.5% (142人)、「重要である」が63.5% (317人)、「あまり重要でない」が7.0% (35人)、「重要でない」が0.6% (3人)という結果であった。「大いに重要である」と「重要である」をあわせると92.0%と9割以上に達し、多くの学生が将来を考えて授業を履修し、勉強していることが分かる。



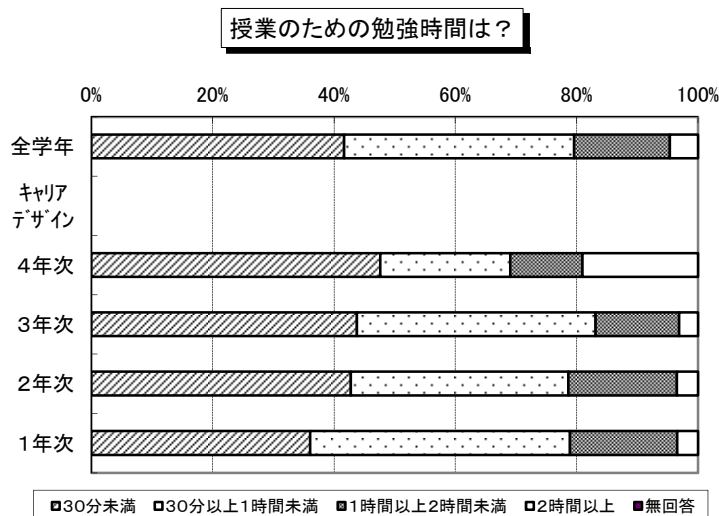
1-2 授業に対する理解

「本学の授業全般について、難しいと思いますか」とたずねたところ、「大いに思う」が10.0% (50人)、「思う」が55.3% (276人)、「あまり思わない」が28.1% (140人)、「思わない」が6.4% (32人)という結果であった。「大いに思う」と「思う」と回答した学生をあわせると65.3%と6割以上の学生が授業全般について難しいと回答しており、授業内容を十分に理解できていない学生が多くいる可能性がうかがえる。



1-3 学修時間

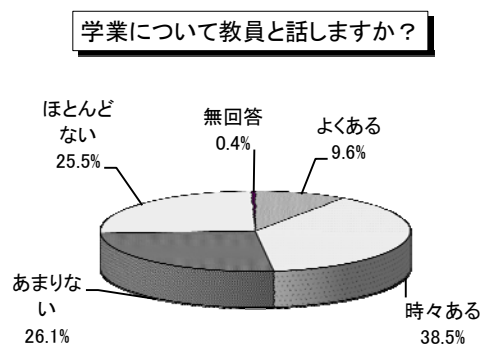
「週単位で平均すると一日どのくらい勉強していますか」とたずねたところ、「30分未満」が41.7% (208人)、「30分以上1時間未満」が37.9% (189人)、「1時間以上2時間未満」が15.8% (79人)、「2時間以上」が4.6% (23人)という結果であった(無回答0人)。「30分未満」と「30分以上1時間未満」をあわせると約8割になり、勉強時間の少ない学生が多いことが示された。



一方、国家試験の受験が直前に迫っている4年生は「2時間以上」の割合が34.8% (23人中8人)と、他学年よりもその比率が高かった。

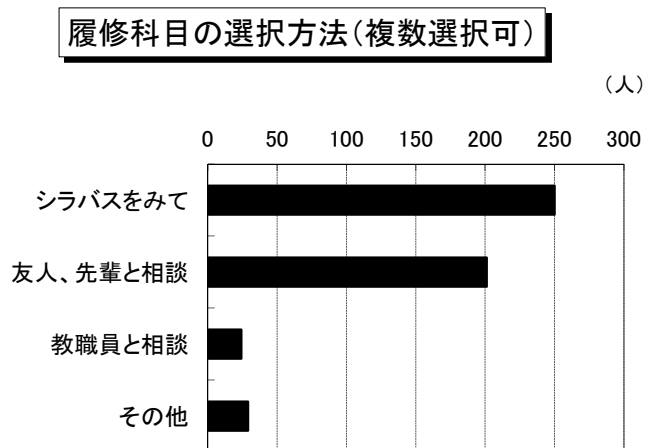
1-4 学業についての教員との会話

「学業について教員と話をすることがあります（授業での質問を含む）」とたずねたところ、「よくある」が9.6%（48人）、「時々ある」が38.5%（192人）、「あまりない」が26.1%（130人）、「ほとんどない」が25.5%（127人）という結果であった。このように、教員との学業に関する会話は、48.1%の学生が「よくある」「時々ある」と回答した一方、51.6%の学生が「あまりない」「ほとんどない」と回答しており、二分される傾向が示された。



1-5 履修科目の選択方法

「履修する科目をどのようにして選びますか（複数回答可）」とたずねたところ、「シラバスをみて」が50.1%（250人）、「友人、先輩と相談」が40.3%（201人）、「教職員と相談」が4.8%（24人）、「その他」が5.8%（29人）という結果であった。「シラバスをみて」と「友人、先輩と相談」をあわせると90.4%と9割以上に達した。



FD委員会からのコメント

1. 学業について

大学での勉強の重要性については、92.0%の学生が「大いに重要である」または「重要である」と認識しています。これは、専門職養成を柱とした本学の教育カリキュラムが、各資格取得のために必要な科目を多数設けていることと関係があると思われます。授業の難しさを問う質問に対しては、65.3%の学生が「授業が難しい」と回答しています。その理由としては、単に授業の内容が高度であるというだけでなく、学生の生活設計にも問題があるように思われます。

現今の学生は学費の支払いが容易ではありません。おのずから、アルバイトをせざるを得ない状況にあります。それに当てる時間帯と、授業の時間帯との調整がうまくいっていない可能性があります。夜中にも働くことがあり、その場合には、翌日の午前中は授業を入れない、長時間のアルバイトの後は、休養する時間を確保する等の配慮を十分しているのでしょうか。授業科目の選択は、必要な科目だから、友人と同じ科目を取りたいからという理由で決めると、無理が生じます。疲れのために、居眠りや、欠席が増えると、当然授業についていけなくなり、内容が難しいと感じてしまうことにもなるでしょう。

年度当初、受講科目を決めるときに、シラバスの参照や友人との相談のほかに、自分のアルバイト等、生活の状況を十分考慮して、時間を配分していく必要があると思います。そのためにも、教員のオフィスアワーを利用して相談をしてほしいのです。いろいろな方法を提案してくれるでしょう。

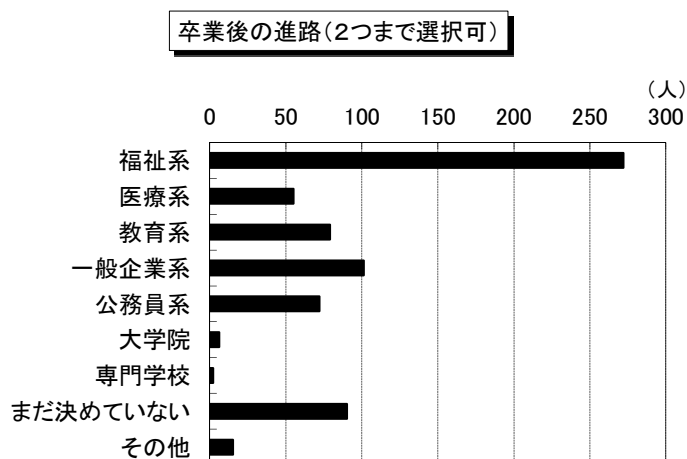
本学の図書館は、国家試験対策関連図書が充実し、館内には個別スペースも確保されています。生活、学業にゆとりがあれば、図書館の活用も自然と増えてくると思います。大学4年間を充実したものにするために、学生生活を総合的に設計する努力を惜しまないでください。

教員も、授業の改善について、日々工夫しています。学生の要望に積極的に応えようとしていますから、是非、意見を寄せてください。

第2章 進路・キャリア支援

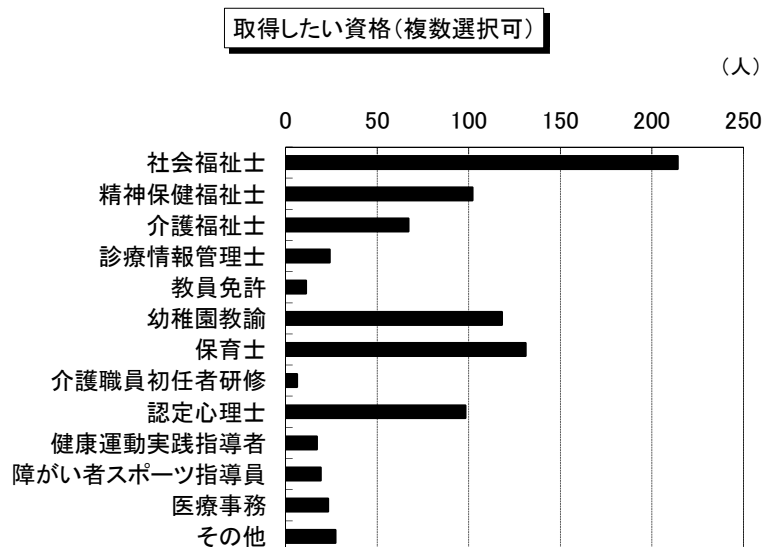
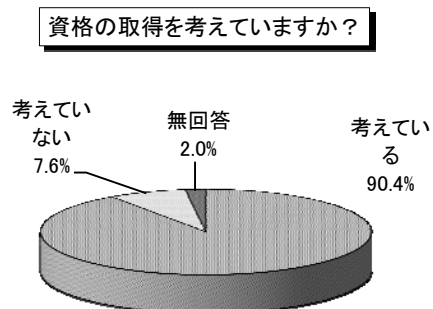
2-1 卒業後の進路

「卒業後の進路をどのように考えていますか（主なもの2つ）」とたずねたところ、「福祉系」が54.5%（272人）と半数以上を占め、つぎに「一般企業系」が20.2%（101人）、さらに「教育系」が15.8%（79人）、「公務員系」が14.4%（72人）、「医療系」が11.0%（55人）、「大学院」が1.2%（6人）、「専門学校」が0.4%（2人）、「まだ決めていない」が18.0%（90人）であった。「その他」の内容は、保育系、スポーツ系、自営業、社会保険労務士、土木・建設系などの記載がみられた。



2-2 取得したい資格

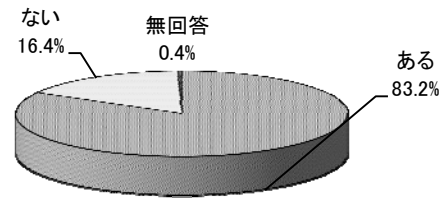
「就職などにつながる資格を取得したいと考えていますか」とたずねたところ、「考えている」が90.4%（451人）、「考えていない」が7.6%（38人）であった。「考えている」の具体的な内容（複数回答可）としては、「社会福祉士」が47.5%（214人）、「精神保健福祉士」が22.6%（102人）、「介護福祉士」が14.9%（67人）、「診療情報管理士」が5.3%（24人）、「教員免許」が2.4%（11人）、「幼稚園教諭」が26.2%（118人）、「保育士」が29.0%（131人）、「介護職員初任者研修」が1.3%（6人）、「認定心理士」が21.7%（98人）、「健康運動実践指導者」が3.8%（17人）、「障がい者スポーツ指導員」が4.2%（19人）、「医療事務」が5.1%（23人）という結果であった。「その他」の内容は、PC関係、社会福祉主事、福祉皮膚美容士、児童指導員、レクリエーションインストラクター、食生活アドバイザー、英検などの記載がみられた。



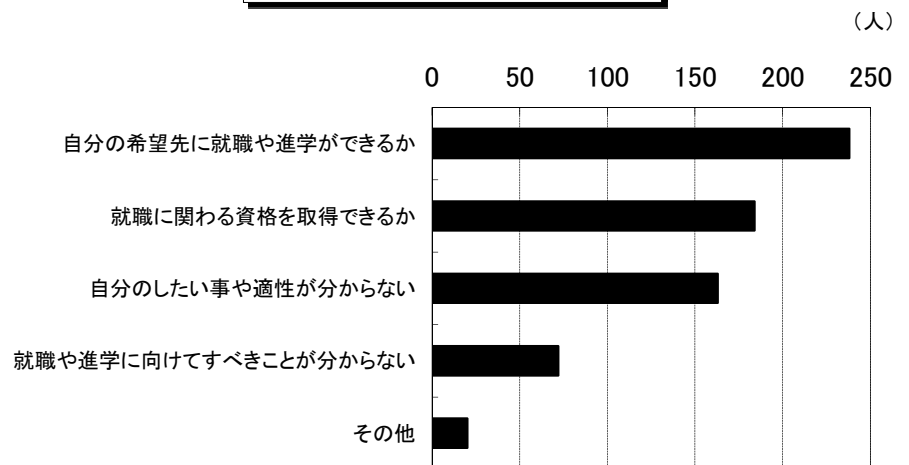
2-3 将来設計（進路）への不安

「将来設計（進路）について不安がありますか」とたずねたところ、「ある」が83.2%（415人）、「ない」が16.4%（82人）、無回答は2人であった。「ある」の具体的な内容（複数回答可）としては、「自分の希望先に就職や進学ができるか」が57.3%（238人）、「就職に関わる資格を取得できるか」が44.3%（184人）、「自分のしたい事や適性が分からない」が39.3%（163人）、「就職や進学に向けてすべきことが分からない」が17.3%（72人）という結果であった。「その他」の内容は、自分が本当にその職業に向いているのか、就職先が決まらない、能力的に通用するのか、体調面等があげられた。

将来設計に不安がありますか？



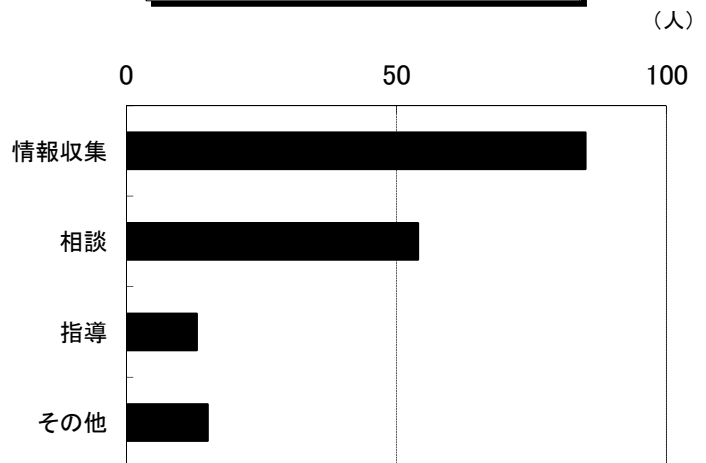
将来設計についての不安（複数選択可）



2-4 キャリア支援課の活用

「キャリア支援課を利用したことがある方は、利用した内容を教えてください（複数回答可）」とたずねたところ、「情報収集」が17.0%（85人）、「相談」が10.8%（54人）、「指導」が2.6%（13人）、「その他」は3.0%（15人）という結果であった。「その他」の内容は、インターンへの応募、忘れ物をした際の報告と相談、雑談等があげられた。

キャリア支援課の利用内容（複数選択可）



2-5 キャリア支援課への要望や質問

18名の記述があった。要望としては、「必ず一人は、キャリア課に居てほしい」「県外の情報をもっと欲しい」「大学院進学に関する情報を増やしてほしい」「キャリアの情報をスマートフォンなどで見れるようになったら嬉しい」などがあった。質問としては、「どんな就職先があるか」「公務員試験についての質問」「エントリーシート書き方の書き方」などがあった。

キャリア支援委員会からのコメント

2-1 卒業後の進路

本学は、開学以来、高い実就職率を確保しています。これは、本学が社会に必要とされる人材を育成している証だといえるでしょう。福祉の高等教育機関として実績を積み重ねる中で、福祉・医療分野への就職を希望する学生は、60%以上を占めています。近年は、若干「一般企業・公務員系」に進む学生が増えている傾向にありますが、一般企業に進んだ学生の多くは、大学で学んだ「福祉」の心や精神、コミュニケーション力などを活かしての就職となっています。

在校生の皆さんは、それぞれの学年に応じて、自分自身の進路について真剣に考えていただき、将来のキャリア・プラン、ライフ・プランを描いてください。そしてその到達点に向けて、何が必要なのか、何をすべきなのかをしっかりと把握してください。そこから自分自身のキャリア形成がスタートします。

2-2 取得したい資格

本学は、学生の資格取得を推奨しています。また、90%以上の学生は、「就職などにつながる資格を取得したいと考えている」と回答しています。

資格取得という目標を立て、実行していくことで社会に役立つ実践能力を身につけるとともに、自分自身の大きな自信につながります。

2-3 将来設計（進路）への不安

将来設計に関しては、83.2%の学生は就職や進学問題、自分の適正が不明などの不安を抱えています。皆さんが抱える「不安」については、情報不足や知識不足を克服することで多くは解消することができます。

キャリア支援の授業を受講して、情報や知識を補完してください。また、キャリア支援課では、皆さんの不安に対し、情報収集の方法などの助言やさまざまな相談に対応しています。

2-4 キャリア支援課の活用

キャリア支援課では、学生の皆さんの就職活動がスムーズに進むように、就職活動本番に向けての準備のお手伝いから、就職活動が終了するまで、求人情報等の提供やガイダンスの開催、就職相談などの就職活動全般にわたり支援しています。今後も皆さんの期待に応えられるように、支援の在り方について、さらに向上していけるよう努めていきます。キャリア支援課は、皆さんの就職活動の応援団であり、アドバイザーであり、コンサルタントであると考えています。皆さんの希望を真摯に受け止め、実現に向けての手助けができるよう全力でサポートしていきます。

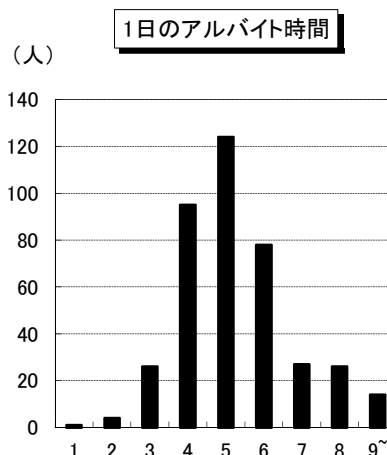
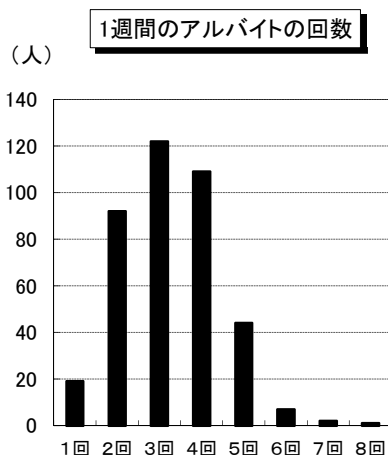
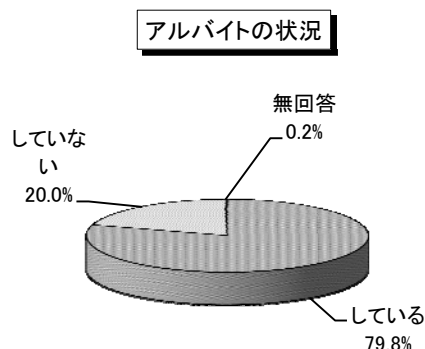
2-5 キャリア支援課への要望

キャリア支援課へ多くの要望をいただき、その責任の重さを実感しております。学生の皆さんの期待に答えられるように教職員、関係機関と連携を図り、支援のあり方や手法について検討し、レベルの向上を目指します。また、学生の皆さんが利用しやすく、相談しやすい体制を構築していきます。

第3章 学生生活

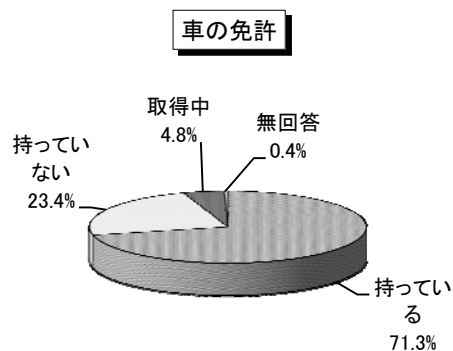
3-1 アルバイトの状況

「アルバイトをしていますか」とたずねたところ、「している」が79.8%（398人）、「していない」が20.0%（100人）であった。1週間のアルバイトの回数は3回が多く、1日に従事する時間は平均4～5時間が多かった。また、10人の学生（398人中2.5%）に週6回以上との回答が、40人の学生（398人中10.1%）に1日平均8時間以上との回答がみられた。一方、「していない」と回答した学生のうち、「アルバイトを希望」は38.0%（38人）、「アルバイトを希望していない」は26.0%（26人）であった。近年、保護者の経済的問題が増加傾向にあり、学生のアルバイトの回数や一日の時間も微増傾向にある。学年による差もあることから、さらに分析を行い、学業とアルバイトとの両立に関する課題を明らかにし、必要な指導や支援を行うことを検討したい。



3-2 車の免許

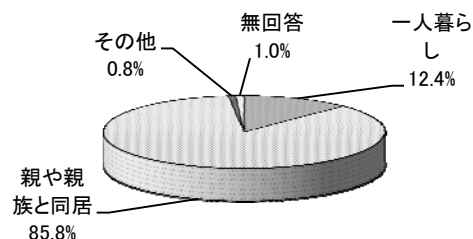
「車の免許を持っていますか」とたずねたところ、「持っている」が71.3%（356人）、「持っていない」が23.4%（117人）、「取得中（自動車学校に通学中など）」が4.8%（24人）であり、7割強の学生が車の免許を取得していることが示された。学年によって差があると思われるが、通学や実習、就職等を考えて、卒業までに多くの学生が取得を目指している。



3-3 同居家族の有無

「現在、授業がある時期は一人暮らしをしていますか」とたずねたところ、「一人暮らし」12.4% (62人)、「親や親族と同居」85.8% (428人)で、8割以上の学生が親や親族と同居をしていることが示された。「その他」の内容は、ルームシェア、色々な所をぶらぶら、彼となどがあげられた。

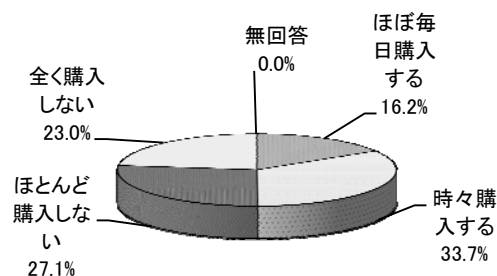
一人暮らしについて



3-4 学生食堂

「学生食堂でどのくらいの頻度で食券を購入しますか」とたずねたところ、「ほぼ毎日購入する」が16.2% (81人)、「時々購入する」が33.7% (168人)、「ほとんど購入しない」が27.1% (135人)、「全く購入しない」が23.0% (115人)という結果であった。

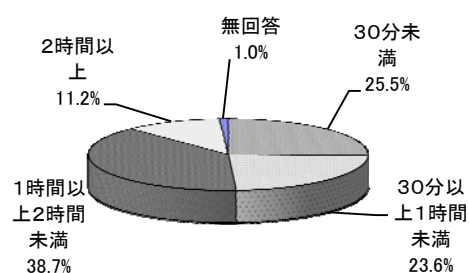
学生食堂の食券購入について



3-5 通学時間

「普段の通学時間はおよそどのくらいですか」とたずねたところ、「30分未満」が25.5% (127人)、「30分以上1時間未満」が23.6% (118人)、「1時間以上2時間未満」が38.7% (193人)、「2時間以上」が11.2% (56人)という結果であった。通学時間が1時間以上の学生が約5割をしめている。

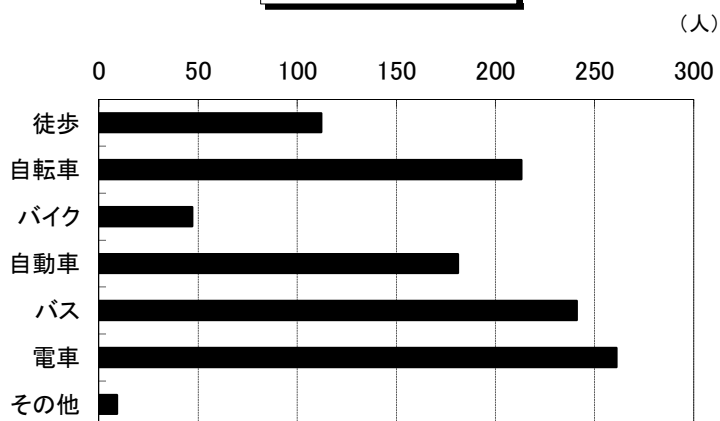
通学時間



3-6 通学手段

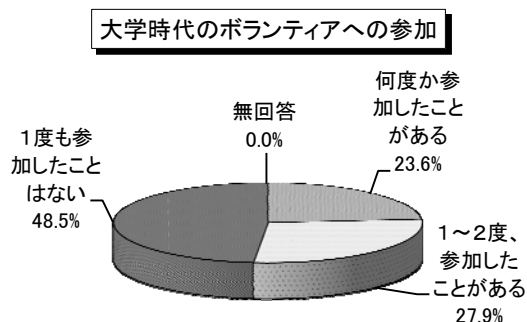
「普段、どのような通学手段をとっていますか。使っている全ての手段を教えてください」とたずねたところ、「徒歩」が22.4% (112人)、「自転車」が42.7% (213人)、「バイク」が9.4% (47人)、「自動車」が36.3% (181人)、「バス」が48.3% (241人)、「電車」が52.3% (261人)であり、電車、バス、自転車を手段としている学生が多いと共に、他大学に比べて、自動車が約4割と高いことが示された。

通学手段(複数選択可)



3-7 大学でのボランティア活動への参加

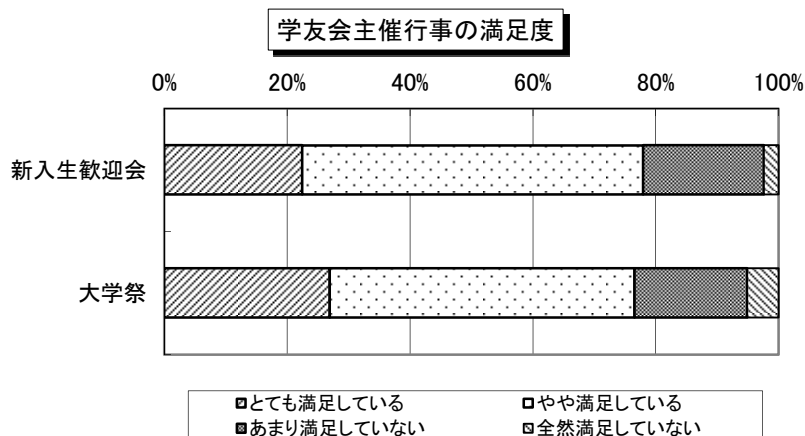
「本学に入学してから現在までの間で、ボランティア活動に参加したことがありますか」とたずねたところ、「何度か参加したことがある」23.6%（118人）、「1～2度、参加したことがある」27.9%（139人）、「1度も参加したことはない」48.5%（242人）という結果であった。ボランティア活動の参加経験がある学生は5割強であった。



3-8 学友会主催行事の満足度

平成30年度の11月までに学友会が実施した2種類の行事への参加割合についてたずねたところ、参加した学生の割合は、「新入生歓迎会」43.3%、「大学祭」53.0%であった。

さらに、参加者に「今年、学友会主催の行事に参加した方に伺います。満足しましたか」とたずねた。「新入生歓迎会」における「とても満足している」「やや満足している」は75.5%（216人中163人）、「大学祭」における「とても満足している」「やや満足している」は74.2%（264人中196人）であった。

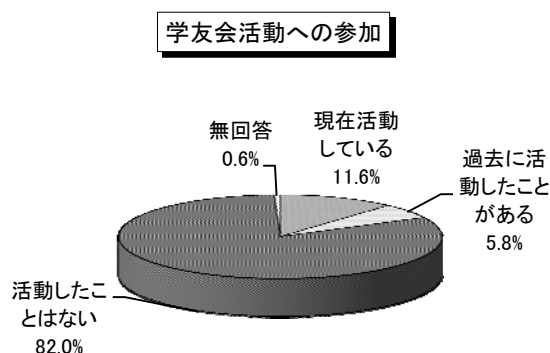


3-9 3-8 にあげた行事に対する要望や意見

57名の記述がみられた。新入生歓迎会については「歓迎会にしては盛りあがらない、歓迎されていない感じがした」「新入生歓迎会という名前があるくらいなのでもう少し楽しい事をしても良いのではないか」などの意見がみられた。大学祭については「大学祭のお店を増やしてほしい」「全員参加にした方が楽しいと思う」「実行委員の要領が悪い」「大学祭実行委員の人手が欲しいです」「ダンス大会とかアイドル大会とか有志のステージ」などの意見がみられた。他の意見として、「球技大会等の運動系の行事をしたい」「いつ行かうか知らない。もっとPRしてほしい」「授業の一環として行うのは自主性に欠け、よくないと思う」などがみられた。

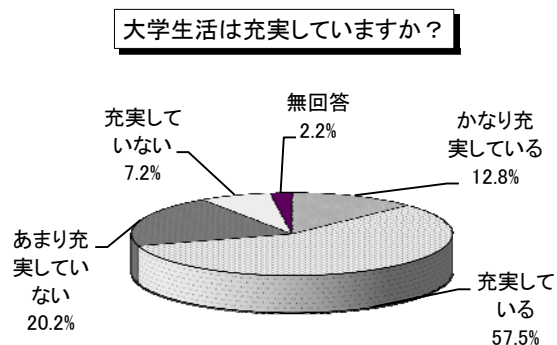
3-10 学友会活動への参加

「代議委員会、体育会・文化会、大学祭実行委員会、卒業記念委員会のいずれかで活動したことはありますか」とたずねたところ、「現在、活動している」が11.6%（58人）で、「過去に活動したことがある」が5.8%（29人）、「活動したことはない」が82.0%（409人）という結果で、学友会活動に参加経験のある学生は1割強であることが示された。



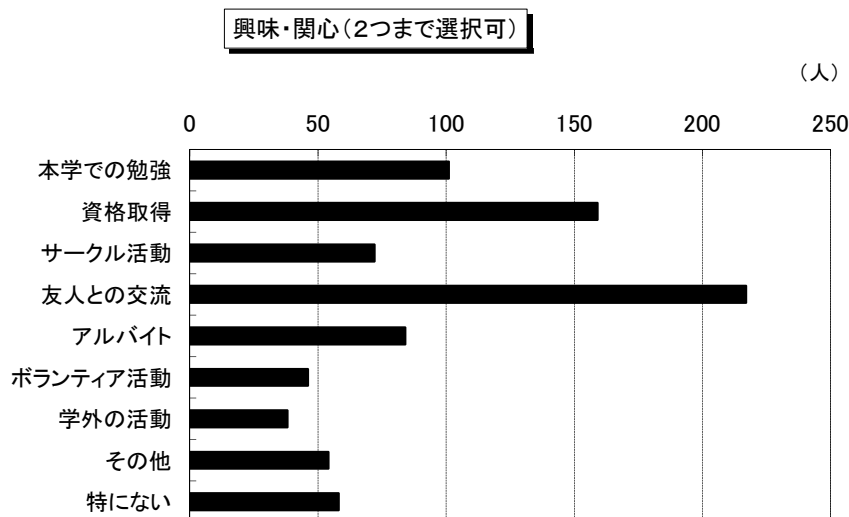
3-11 大学生生活の充実度

「大学生生活は充実していますか（楽しいですか）」とたずねたところ、「かなり充実している」が12.8%（64人）、「充実している」が57.5%（287人）、「あまり充実していない」が20.2%（101人）、「充実していない」が7.2%（36人）であり、7割強の学生に大学生生活は充実しているとの回答が示された。



3-12 興味・関心

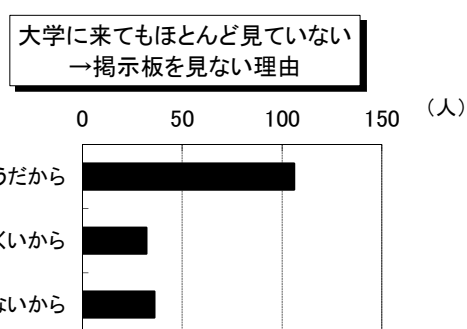
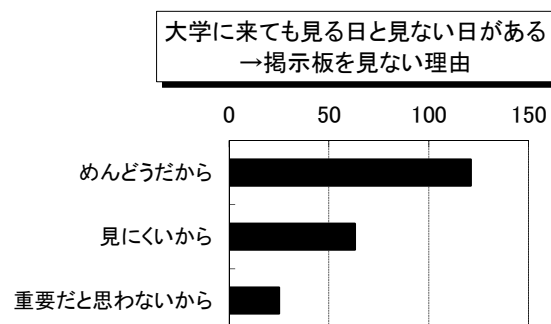
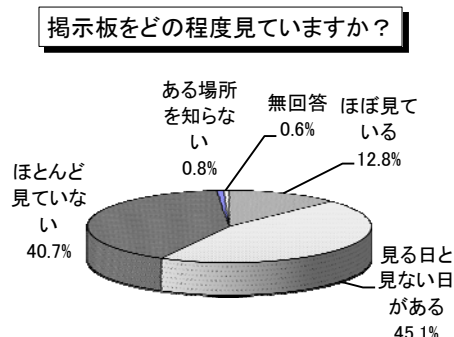
「現在、興味や関心を持って行っていることは何ですか（主なもの2つ）」とたずねたところ、8項目の中で、最も高かったのは「友人との交流」43.5%（217人）、ついで「資格取得」31.9%（159人）であり、この2点への興味・関心が他の項目に比べて高いことが示された。3番目に興味・関心が高いのは「本学での勉強」19.7%（101人）であった。



3-13 掲示板の使用

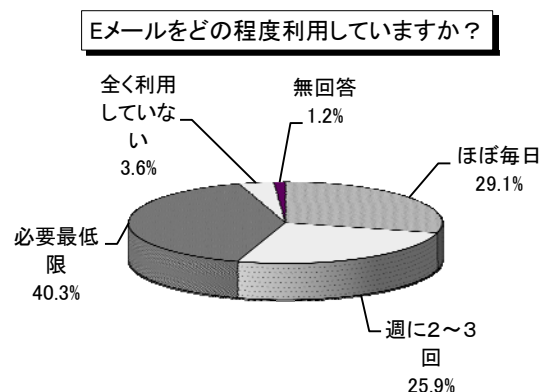
「掲示板（教務、学科、資格取得支援など）をどの程度見えていますか」とたずねたところ、「ほぼ大学に来るたびに见ている」が12.8%（64人）、「大学に来ても見る日と見ない日がある」が45.1%（225人）、「大学に来てもほとんど见ていない」が40.7%（203人）、「掲示板のある場所を知らない（だから见ていない）」が0.8%（4人）という結果であった。

さらに「大学に来ても見る日と見ない日がある」「大学に来てもほとんど见ていない」と回答した方に理由をたずねた。「大学に来ても見る日と見ない日がある」と回答した人は「めんどうだから」が53.8%（121人）、「見にくいから」が28.0%（63人）、「重要だと思わないから」が11.1%（25人）であった。「大学に来てもほとんど见ていない」と回答した人は「めんどうだから」が52.2%（106人）、「見にくいから」が15.8%（32人）、「重要だと思わないから」が17.7%（36人）であった。



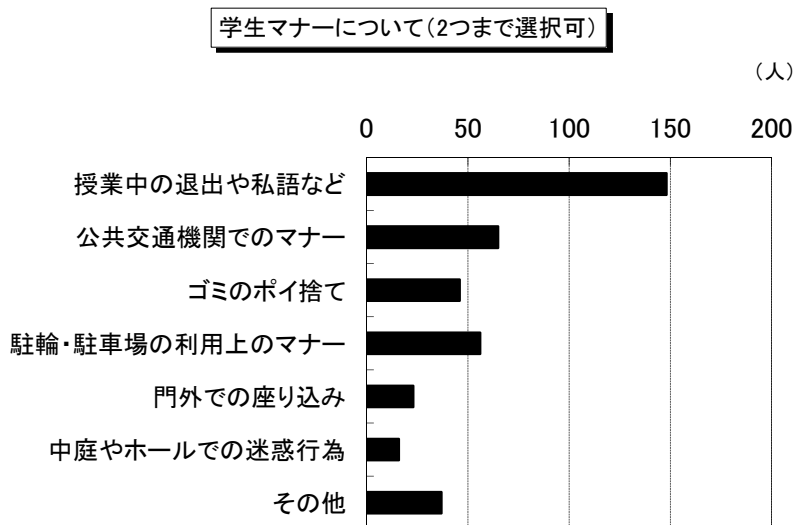
3-14 Eメールの利用

「大学のEメールをどのくらい利用（メールのチェックや送受信）していますか」とたずねたところ、「ほぼ毎日」が29.1%（145人）、「週に2～3回」が25.9%（129人）、「必要最低限（授業などで）」が40.3%（201人）、「全く利用していない」が3.6%（18人）という結果であった。



3-15 学生マナーについて

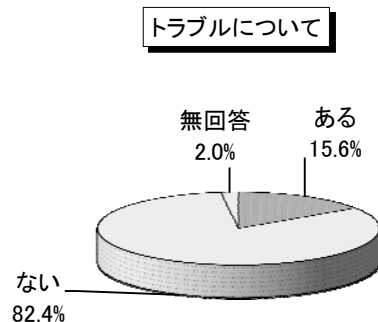
「本学の学生が改善したほうがよいと思うマナーはありますか（主なもの2つ選択）」とたずねたところ、「ある」が54.5%（272人）、「ない」が44.3%（221人）という結果であった。改善すべき点については、「授業中の退出や私語など」が54.4%（148人）、「公共交通機関でのマナー」が23.9%（65人）、「ゴミのポイ捨て」が16.9%（46人）、「駐輪・駐車場の利用上のマナー」が20.6%（56人）、「門外での座り込み」が8.5%（23人）、「中庭やホールでの迷惑行為」が5.9%（16人）「その他」が13.6%（37人）という結果であった。「その他」の内容には、喫煙者のマナー、盗難、授業時間など廊下などで叫ぶ行為等の記載内容があった。



3-16 学内外でのトラブル

「本学に入学してから現在までの間に、学内外でトラブルにあったことがありますか」とたずねたところ、「ある」が15.6%（78人）、「ない」が82.4%（411人）であった。具体的なトラブルの内容（複数回答可）は、高い順に「交通事故」「盗難」がともに28.2%（22人）、「ハラスメント（嫌がらせ）」が25.6%（20人）、「宗教勧誘・マルチ商法」が11.5%（9人）、「ストーカー行為・デートDV・脅迫」が7.7%（6人）、「悪徳セールス」は0%（0人）であった。

「その他」への記載は痴漢、ブラックバイト、暴力事件、学生駐車場で当てにげされた等の記載がみられた。

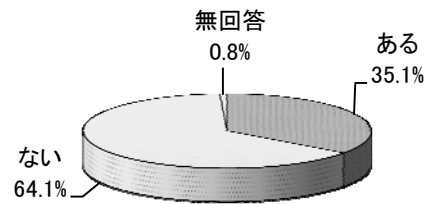


3-17 学生生活への悩み

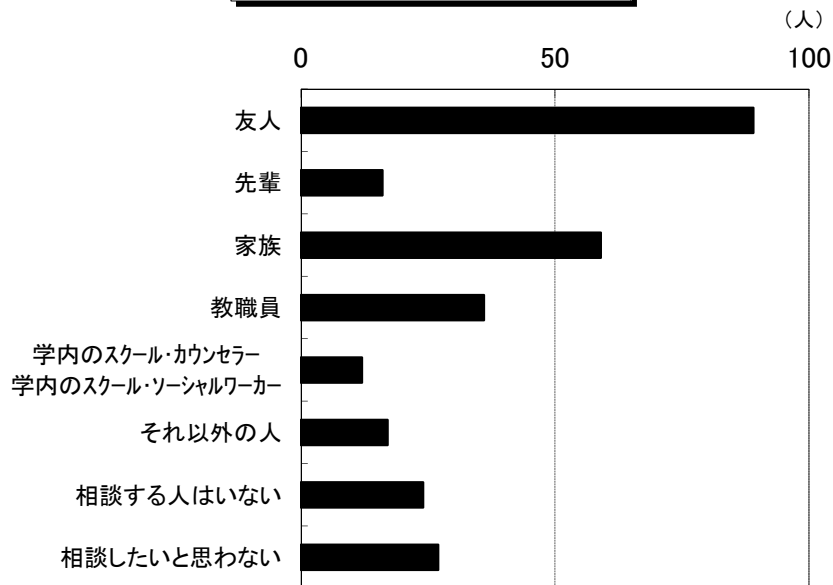
「現在、学生生活に関して悩みがありますか」とたずねたところ、「ある」が35.1% (175人)、「ない」が64.1% (320人)であった。「ある」の回答者に、「悩みを誰かに相談していますか」とたずねたところ、「友人」50.9% (89人)と「家族」33.7% (59人)が多く、ほかに「先輩」9.1% (16人)、「教職員」20.6% (36人)、「学内のスクール・カウンセラー、学内のスクール・ソーシャルワーカー」6.9% (12人)、「それ以外の人」

9.7% (17人)であった。その一方、「相談する人はいない」13.7% (24人)、「相談したいと思わない」15.4% (27人)との回答もみられた。また、「ある」の回答者に「内容」をたずねたところ、高い順に「人間関係」37.1% (65人)、「学業面の問題」19.4% (34人)、「健康面の問題」12.6% (22人)、「その他」9.1% (16人)、「経済的事情」7.4% (13人)、「進路変更したい」6.3% (11人)となった。

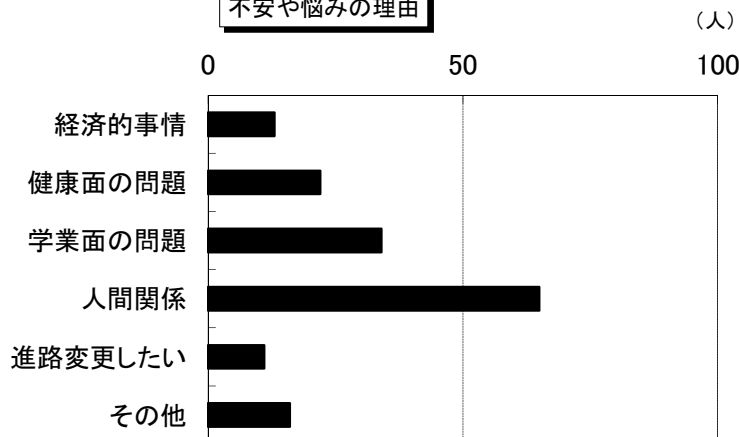
学生生活への悩み



不安や悩みの相談相手(複数選択可)

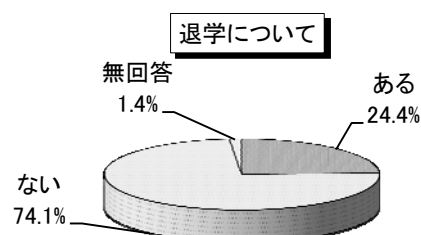


不安や悩みの理由



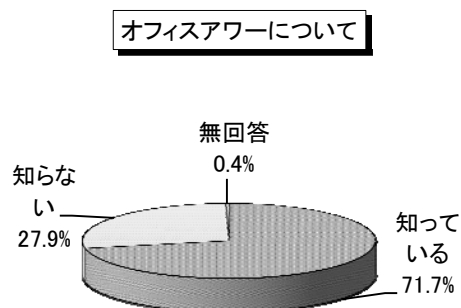
3-18 退学について

「本学を退学することについて考えたことがありますか」とたずねたところ、「ある」24.4% (122人)、「ない」74.1% (370人)であった。退学を考えた理由は、高い順に「人間関係」が32.8% (40人)、「経済的事情」「学業面の問題」「進路変更したい」が23.8% (29人)、「健康面の問題」6.6% (8人)であった。「その他」の内容には、家の事情、やる気のなさ、精神的に、何がやりたいのか何のために頑張るのか分からなくなった等の記載がみられた。



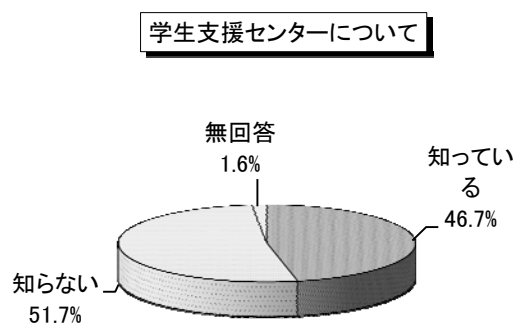
3-19 オフィスアワーについて

「オフィスアワーを知っていますか」とたずねたところ、「知っている」71.7% (358人)、「知らない」27.9% (139人)であった。さらに、「知っている」と回答した学生に利用したことがあるかについてたずねたところ、「利用したことがある」と回答した学生は28.0% (100人)であった。



3-20 学生支援総合センターについて

「学生支援総合センターを知っていますか」とたずねたところ、「知っている」が46.7% (233人)、「知らない」が51.7% (258人)であった。さらに、「知っている」と回答した学生に利用したことがあるかをたずねたところ、「利用したことがある」と回答した学生は23.2% (54人)であった。



学生支援総合センターからのコメント

3-16 学内外でのトラブル

「学内外でのトラブルにあったことがある」と答えた学生は、昨年度より微増して15.6%でした。そのうち最も多かったものが「交通事故」「盗難」です。交通事故にあたり、学内で盗難被害にあたりした場合は、学生教務課に届け出てください。

学内外を問わず「ストーカー行為・デートDV・脅迫」の被害にあっている場合は、一人で抱え込まないで学生支援総合センターなどに遠慮なく相談に来てください。また、学内において「ハラスメント（嫌がらせ）」にあった場合は、ハラスメント防止・対策委員会の担当者に相談してください。

3-17 学生生活への不安や悩み

悩みをもたない人は、ほとんどいないでしょう。特に、青年期にあたる大学生は自分自身のことや将来のことなど、様々なことで悩むことが多いと思います。悩みはあるのに「相談する人がいない」、「相談したいと思わない」という人が決して少なくないことが気がかりです。悩みを一人で抱え込まず、学生支援総合センターを気軽に利用してください。話をするだけで、かなりスッキリするはずですよ。

3-18 退学について

24.4%、つまり、約4人に1人の学生が「退学を考えたことがある」と答えています。その一番の理由は、「人間関係」でした。「すべての悩みは人間関係である」と語る心理学者がいるように、人間関係に悩みは尽きないものです。しかし、その人間関係の悩みのために、退学して自分の将来の目標を断念するという決断をくだすことには慎重になりたいものです。人間関係で悩みが生じた時には、是非、学生支援総合センターへいらしてください。一緒に、解決策を考えましょう。

3-20 学生支援総合センターについて

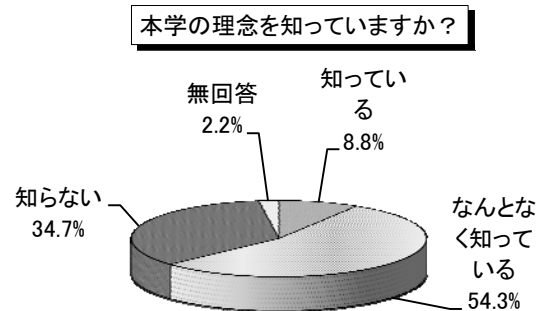
「知っている」学生が46.7%で、「知らない」学生が51.7%ということは、知らない学生の方が多ということになります。学生支援総合センター企画の勉強会などを開催し、学生支援総合センターの存在を、学生みなさんに知っていただけるよう、努めていきたいと思っています。

第4章 大学

4-1 本学の理念（建学の精神）の認知

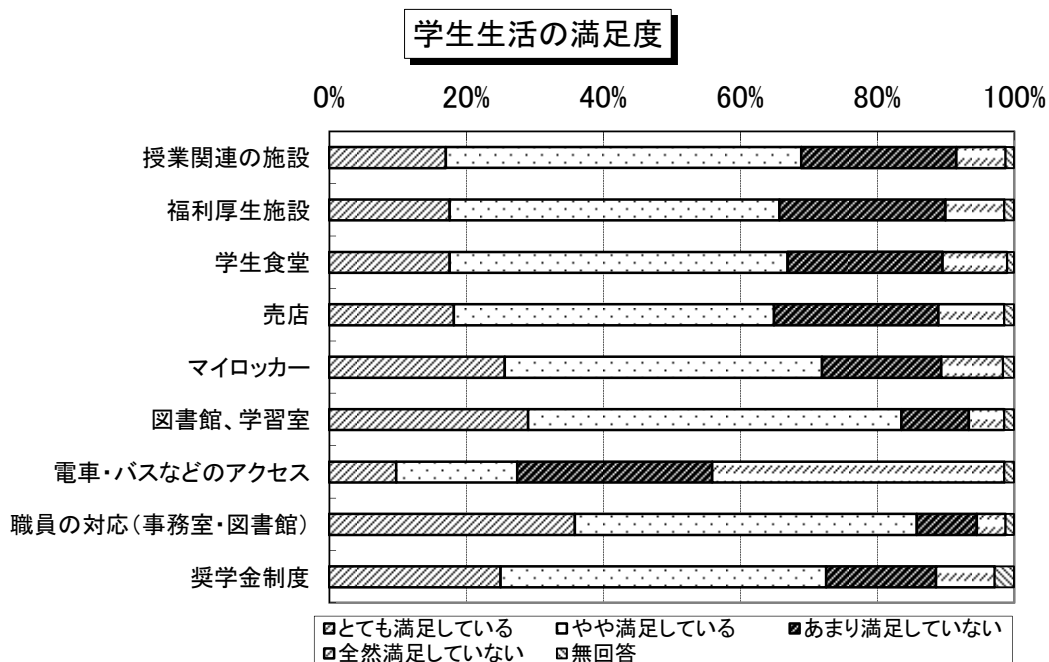
「本学の理念（建学の精神）を知っていますか」とたずねたところ、「知っている」が8.8%（44人）、「なんとなく知っている」が54.3%（271人）、「知らない」が34.7%（173人）であった。

大学ではその方法として、学内の掲示、学長との新入生懇談会等を通じて、周知を行っている。しかし、3割以上が「知らない」と回答しており、さらに学生の認知度を高める工夫が必要である。



4-2 大学生生活の満足度

「次にあげた項目について、どの程度満足していますか」とたずねたところ、以下の結果が得られた。



「教室、体育館などの授業関連の施設」については、「とても満足している」17.0%（85人）、「やや満足している」51.9%（259人）、「あまり満足していない」22.6%（113人）、「全然満足していない」7.2%（36人）という結果であった。「トイレ、学生ホール、部室などの福利厚生施設」については、「とても満足している」17.6%（88人）、「やや満足している」48.1%（240人）、「あまり満足していない」24.2%（121人）、「全然満足していない」8.6%（43人）という結果であった。「学生食堂」については、「とても満足している」17.6%（88

人)、「やや満足している」49.3% (246人)、「あまり満足していない」22.6% (113人)、「全然満足していない」9.4% (47人) という結果であった。「売店」については、「とても満足している」18.2% (91人)、「やや満足している」46.7% (233人)、「あまり満足していない」24.0% (120人)、「全然満足していない」9.6% (48人) という結果であった。「マイロッカー」については、「とても満足している」25.7% (128人)、「やや満足している」46.3% (231人)、「あまり満足していない」17.4% (87人)、「全然満足していない」9.0% (45人) という結果であった。「図書館、学習室」については、「とても満足している」29.1% (145人)、「やや満足している」54.5% (272人)、「あまり満足していない」9.8% (49人)、「全然満足していない」5.2% (26人) という結果であった。「本学への電車・バスなどのアクセス」については、「とても満足している」9.8% (49人)、「やや満足している」17.6% (88人)、「あまり満足していない」28.5% (142人)、「全然満足していない」42.7% (213人) という結果であった。「事務室や図書館などにいる職員の対応」については、「とても満足している」35.9% (179人)、「やや満足している」49.9% (249人)、「あまり満足していない」8.8% (44人)、「全然満足していない」4.2% (21人) という結果であった。「奨学金制度」については、「とても満足している」25.1% (125人)、「やや満足している」47.5% (237人)、「あまり満足していない」16.0% (80人)、「全然満足していない」8.6% (43人) という結果であった。

以上のように、「大学生活の満足度」の全項目について比較すると、「大学への電車・バスなどのアクセス」についての満足度は際立って低い。

4-3 施設や制度、対応等大学への要望や意見

施設や制度、対応への要望や意見については、121名の記述がみられた。

内容の大半を占めていたのが、「バスの増便」「スクールバスの運行」「電車とバスとの連携の悪さ」といった大学と最寄り駅間のバスに関する要望であった。

バス以外に関する内容としては、①「第2大講義室みたいに、近くに携帯を充電できる机が増えてほしい」「車イス用トイレを増やす事と、車イスを利用している人や足が不自由な人が楽に移動出来るようにしてほしい」「図書館の他に課題や資格勉強をするための専用教室が欲しい」などの施設面への要望、②「Wi-Fiの通信速度、回線の効率化」「エレベーターを増やして下さい」「ピアノの台数を増やしてほしい」「学生駐車をアスファルトにするか、せめて平にしてほしい」「喫煙所(屋根付き)」などといった現状に対する要望や意見、③学食メニューや売店商品の充実化への要望などの意見が見られた。

学生厚生委員会からのコメント

学生厚生委員会は、学友会（代議員会・体育会文化会・学祭実行委員会・卒業行事委員会等）に関する支援を行い、また学生の皆さんがより良い大学生活を送ることができるように、さまざまな活動の支援や環境面の改善を目指して取り組んでいます。

平成 30 年度 学生厚生委員会では以下のような目標を立てて取り組みました。

1. 学生の自主性を尊重するとともに、厚生補導等、学生生活一般に関する支援を実施する。
2. 「学修環境の改善等に関する要望書」の学内周知及び運用を図る。
3. 学友会活動支援（代議員会・学祭実行委員会）を強化する。

「1」の目標「学生の自主性を尊重するとともに、厚生補導等、学生生活一般に関する支援を実施」の一例として、学生の代表と学食・コンビニ（売店）を委託している外部業者にも出席してもらい、7月に学食改善会議、11月にはコンビニ（売店）改善会議を開催しました。学生からの要望を把握し、新たなメニュー等、取り入れることが可能なものについては業者へ依頼しております。また、さまざまな学友会活動の支援を行ってきました。

「大学祭」への参加割合が 53.0%という結果が出ております。約半数の学生が何らかの形で参加していますが、不参加の学生も半分弱いるという状況です。このような学友会活動のさまざまな企画や運営等を学生時代に経験しておくことは、社会に出てからもきっと役に立つと思います。大学生活の思い出づくりのためにも、是非、積極的に参加し一緒に学友会活動を盛り上げていきましょう。

「2」の目標である、今年度から本格的な運用を始めた「学修環境の改善等に関する要望書」については、Gメールを通して学生への周知を行いました。その結果、今年度は計 10 件の要望事項が提出され、学生厚生委員会の中で検討してきました。要望内容及び大学からの回答については、直接提出者へ伝える他、他の学生にも分かるようにアクティブ・アカデミー（Web フォルダ→学生厚生）や学内掲示板でお知らせしました。これまで、どのような要望が挙げられたのか、また要望に対する大学からの回答についても確認して下さい。要望書は、学生教務課のカウンターにありますので、積極的に活用してください。皆さんの声が、大学をより良い環境へ変えていく一歩となります。

「3」の目標「学友会活動支援（代議員会・学祭実行委員会）を強化」では、今年度、代議員会支援の主担当を委員長とし、定期的な報告を代議員から委員長が直接受けるとともに、学友会活動等へのアドバイスを実施しました。また学祭実行委員会については、支援担当の教職員が中心となりサポートすることで、今年度の学祭も特に大きな問題もなく開催することができました。

最後に、学生の皆さんには学友会活動へ積極的、主体的に参加し、その中から自分たちの要望や声が反映されるような大学生活にさせていただくことを望みます。学生厚生委員会は、これからもそのような活動をサポートしていきたいと思っております。

総務課からのコメント

(1) 公共交通機関のアクセスについて

最寄り駅からのアクセス向上については、今後もバスの増便等を含めバス運行会社であるしずてつジャストラインに要請していく考えです。

祝日については、以前バスの運行がありませんでしたが、現在大学の通常授業日には、平日と同じ本数運行するようになりました。

また、昨年度から超低床ノンステップバスの運行がされ、電動車いすの利用学生もバスを利用することが可能となりました。

スクールバスの運行については、以前から何度も検討してきたところではありますが、本学がスクールバスを運行した場合、しずてつジャストラインバス利用者の減少による運行数の大幅な削減が予測され、地域社会に与える影響が大きいと思われることから困難との結果になっています。

(2) 学内施設の改善・充実について

施設へのさまざまな要望の中から、前年度に引き続きバリアフリー化を進めました。内容としましては、自動ドア化や正門付近の改良を行いました。今後活かすために、車いす利用学生等の意見を直接聞く機会を複数回設けました。その他、雨水による冠水対策、第1大講義室のLED工事、防犯カメラの増設、食堂のテーブル・椅子の追加等を行いました。

平成31年度につきましては、引き続きバリアフリー化の推進や外壁塗装、小学校教職課程新設に伴う理科実験室の整備等を行います。また、パソコンでレポート作成等ができるように、図書館に加え、パソコン教室を自由に使用できるようにする予定です。

学生駐車場につきましては、借地ということもあり舗装は難しいですが、除草等を行い、利用しやすいように努めます。

大規模な工事や費用が必要な改善については、長期計画を策定し、一つずつ改善していきたいと思っております。

(3) 学食・売店の向上について

平成29年度途中に売店の業者を変更しました。学食・コンビニ改善会議での意見を反映できるように努めます。